

（2）市制施行以降

～街づくりの進展と変化～



多摩市市制施行時の様子

全国から夢と希望をもって多摩ニュータウンへ最初の入居がおこなわれたのは1971（昭和46）年のことでした。初期入居では約8,000人が一挙に入居することになり、多摩市の総人口は1971（昭和46）年で3万人を超えました。多摩町役場では、1970（昭和45）年に制定された「三万人市制特例法」を用いて、市制施行を検討し、多摩町議会は9月27日に「多摩町を市とすることについて」を全員一致で可決しました。



多摩市役所除幕式 1971(昭和46)年11月1日
子どもたちによって幕が落とされたところ。



市制施行宣言 1971(昭和46)年11月1日
議場にて多摩市市制施行の宣言がおこなわれた。



市庁舎での記念撮影 1971(昭和46)年11月1日
前列中央の人物が富澤市長。

1971（昭和46）年11月1日、多摩市市制が施行されます。市役所の開庁式とともに、市議会の市制宣言がおこなわれ、3日には記念式典が開かれました。同じ日に稲城町でも市制施行となったため、ここで南多摩郡の名称が消えることとなりました。（事務局）



産業祭の様子 1971（昭和46）年11月3日



消防庁音楽隊パレード
1971（昭和46）年11月3日

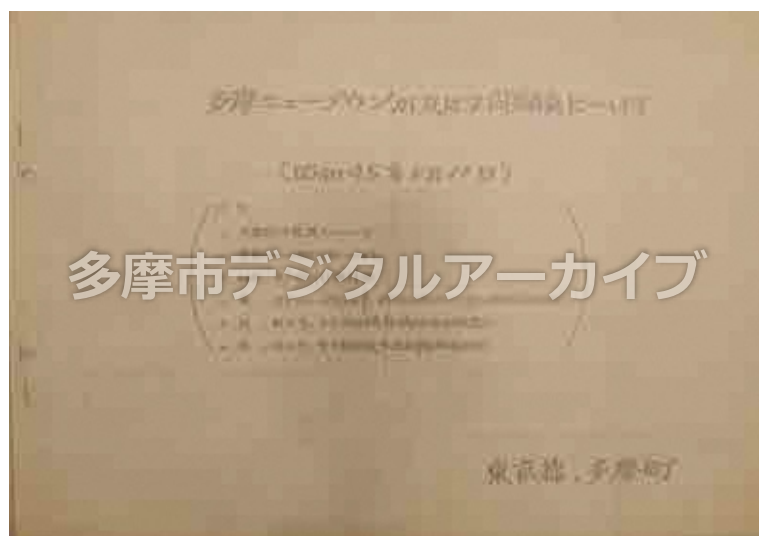


市制施行祝賀大演芸大会
1971（昭和46）年11月6日

計画の課題と見直し

多摩ニュータウン開発は一挙に進んだわけではありません。急激な人口増加に伴う小中学校の建設費は、将来の多摩市の財政赤字を招くことが予想されました。また、開通や建設が遅れる鉄道や総合病院の問題、行政界とニュータウンの境界が一致しない問題など、様々な課題がありました。

多摩市議会は1971（昭和46）年11月に、これらの課題をクリアしない限り住宅建設が認められない旨の議決をし、多摩ニュータウン開発は一時ストップを余儀なくされました。各課題への対応策が決まり、1974（昭和49）年より開発は再開されますが、すでに住宅不足は改善し始めており、単なる住宅



「多摩ニュータウンが及ぼす問題点について」

1970（昭和45）年8月

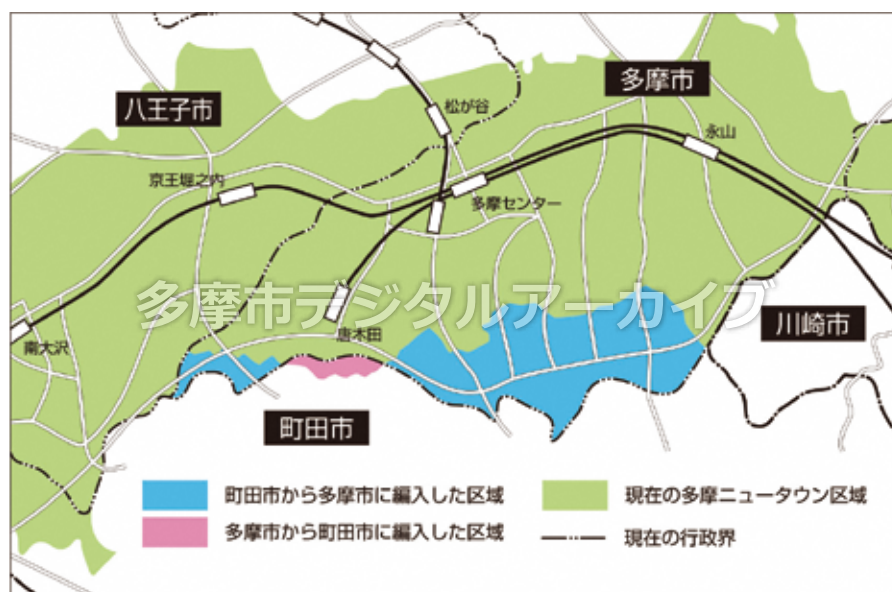
多摩町の近況から今後の財政収支の試算結果などがまとめられている。この試算の事例は公団の試算とも一致し、国の報告書でも報告された。



赤字の試算結果を報じた読売新聞の記事

1967（昭和42）年12月10日

今後の試算をしたところ、100億円の赤字という結果が出たことを報じる記事。当時は手動の計算機で試算にも大変な労力がかかった。



多摩市と町田市の行政界変更部分

多摩ニュータウンの多くは分水嶺をもとに境界が決められたが、多摩市と町田市の行政界は分水嶺とずれていた。そのまま開発されると同じ団地が2市にまたがってしまう恐れがあった。境界は1973（昭和48）年12月1日に変更された。

の大量供給では社会的なニーズにこたえられない状況になっていました。そこで、新たなスタイルの住宅である「タウンハウス諏訪」を建設し、人気を集める一方で、鶴牧・落合地区の開発では、富士山への眺望を意識した設計を取り入れ、公園と公園をつなげて駅まで行けるような形にするなど、新たな開発思想のもと作られました。多摩ニュータウン開発は約40年間かかりましたが、その間にはこのような時代の要請に合わせた様々な試行錯誤がおこなわれました。そのため、多摩ニュータウンではバラエティあふれる建築物や街並みが見られるようになりました。（事務局）



落合・鶴牧地区の様子 2012(平成24)年7月

タウンハウスなど低層・中層住宅が配置され、公園が互いにつなが合わさり大きな面積を取っていることが分かる。



タウンハウス諏訪 2012(平成24)年10月



プロムナード多摩中央からみた多摩ニュータウン
2021(令和3)年

多摩ニュータウンの鉄道

■京王相模原線と小田急多摩線

多摩ニュータウン地域は、京王線と小田急線の間地域であり、鉄道路線の空白地帯でした。昭和30年代末の首都圏の広域鉄道計画では、地下鉄9号線（現東京メトロ千代田線）が小田急線喜多見駅から分岐して多摩川を渡り、多摩ニュータウンに向けて小田急城山線として計画されました。京王線は地下鉄10号線（現都営地下鉄新宿線）が京王多摩川駅から延伸して多摩ニュータウンを経由して相模中



京王多摩川駅での開通式
1974(昭和49)年10月18日



上空から見た永山駅 1993(平成5)年
京王相模原線と小田急多摩線は諏訪地区をトンネルで並走する。トンネルは別々に掘削するので、中心線同士を40m離すことになる。必然的に両駅間が離れて設置された。また両線とも最長10両編成が想定されたので、ホーム長は210mとなった。



上空から見た多摩センター駅 2012(平成24)年
京王多摩センター駅は1974(昭和49)年10月18日に開業したが、駅前広場の整備は始まっておらず、バス停も仮設だった。
1980(昭和55)年4月には多摩センター地区で多摩センター駅前広場、バスターミナルの供用が開始され、最初の商業施設「丘の上プラザ」が開業した。

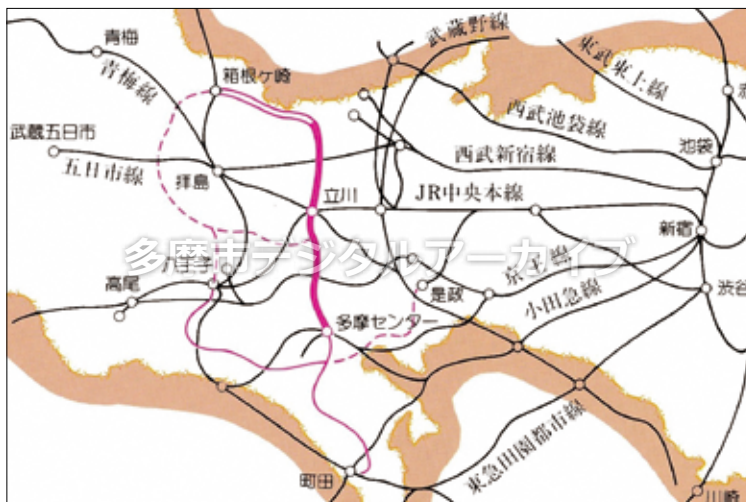
野に至る京王相模原線として計画されました。

その後、京王相模原線は京王稲田堤駅、京王よみうりランド駅が1971（昭和46）年4月1日に、稲城駅、若葉台駅、京王永山駅、京王多摩センター駅が1974（昭和49）年10月18日に開業しました。

小田急城山線は小田急多摩線と改め、多摩ニュータウン区域まで鉄道延伸を図り、新百合ヶ丘駅、小田急永山駅間は1974（昭和49）年6月1日、小田急多摩センター駅は1975（昭和50）年4月23日に開業しました。さらに唐木田駅までの区間が1990（平成2）年3月27日に開業しました。（大石武朗）

多摩都市モノレール構想計画図

多摩都市モノレールの多摩センター駅は、2000（平成12）年に開通した。多摩都市モノレールは、多摩センター駅で京王相模原線、小田急多摩線、高幡不動駅で京王線、立川南・北駅でJR中央線など、玉川上水駅で西武拝島線に接続し、多摩地域の南北をつないでいる。



唐木田駅 1989（平成元）年2月

小田急多摩線多摩センター駅と唐木田駅間（1.5km）は、1990（平成2）年3月27日に開業した。唐木田駅南側には喜多見検車区唐木田出張所（車両基地）が設置された。



喜多見検車区唐木田出張所と建設中の唐木田大橋 1991（平成3）年3月

■ 永山駅とグリナード永山

1971（昭和46）年3月の初期入居から3年余りが経った1974（昭和49）年6月には小田急永山駅が、10月には京王永山駅が開業しました。永山駅開業に合わせ、総合コミュニティ型ショッピングセンター「グリナード永山」も第一期分の開業に至りました。その後も立体駐車場や店舗部分は、増改築とリニューアルを繰り返して今日を迎えました。

さらに、鉄道高架下の商業施設の他、アクロス／スポーツクラブ（1990（平成2）年10月）、ヒューマックスパビリオン永山（1992（平成4）年12月）、そしてベルブ永山（1997（平成9）年3月）もオープンし、文化や娯楽なども楽しめる場となりました。



できた頃の小田急・京王永山駅 1974(昭和49)年11月頃



グリナード永山 1986(昭和61)年5月



グリナード永山パンフレット 1974(昭和49)年
1974(昭和49)年秋オープンのパンフレット

永山駅周辺には、多摩消防署（1972（昭和47）年7月）や住宅公団南多摩開発局（1975（昭和50）年1月）、日本医科大学付属多摩永山病院（現日本医科大学多摩永山病院）（1977（昭和52）年7月）、さらには各企業オフィス群や区画整理区域内の民有ビル群も追加されて、多摩センターと比べてコンパクトにもかかわらず総合的で便利な駅前センター空間を形成しています。

鉄道駅の乗降客数は特急・急行などの停車駅として今なお伸び続けており、諏訪・永山地区の次期活性化戦略の具現化へ向けての期待も大いに高まっています。（成瀬恵宏）



永山駅周辺地区の全体像 2012(平成24)年8月



ヘルプ永山オープニング 1997(平成9)年



ヒューマックスパビリオン永山 2021(令和3)年7月
1992(平成4)年12月開業。多摩センターにもないボウリング場を有する。

多摩センター駅と周辺開発

「ハローキティにあえる街」多摩センター地区は、南多摩地域約60万人の商圏人口を想定して、多摩センター駅南に広がる約77haのエリアです。駅からパルテノン多摩へ向かって伸びるパルテノン大通り（延長340m）がシンボル景観を作り、その背後には多摩中央公園が広がります。

多摩センターは商業、サービス、娯楽、文化の拠点として構想されましたが、その後の社会情勢の変化に柔軟に対応して業務施設、集合住宅も建設され、業務、居住も加えた総合的なエリアになりました。

鉄道は1974（昭和49）年に京王、翌年には小田急が開業しましたが、駅前施設の整備と商業施設



造成工事風景

1980（昭和55）年頃

造成工事が進む多摩センター。向こうに見える高台は多摩中央公園予定地。パルテノン大通りとは約12mの高低差があり、ここにパルテノン多摩が建設される。



竣工前の駅前広場とパルテノン大橋

1980（昭和55）年頃

1980（昭和55）年の開設に向けて工事が進んでいる。周囲の建物の建設は未だ始まっていない。



ファインコミュニティフェアTAMA'81

1981（昭和56）年

丘の上プラザ開業の翌年、コミュニティフェア'81が催された。広大な多摩センターの中に丘の上プラザがぽつんと建っている。

「丘の上プラザ」の開設は1980（昭和55）年になります。それ以降、順次百貨店ビル（現ココリア）、京王プラザホテル、パルテノン多摩、サンリオピューロランドなどが開設されました。

1990年代に入ると、多摩ニュータウンの多機能複合化の嚆矢として業務施設（朝日生命多摩本社）が開設し、その後福武書店（現ベネッセコーポレーション）東京ビルをはじめとして金融・保険・情報サービス会社のバックオフィスや製造業の本社の立地が続きました。これらの業務施設の集積は、多摩市の^{こうし}税収にも貢献しています。

住宅は当初は計画されていなかった多摩センターですが、2004（平成16）年より民間マンションの入居が始まりました。駅側近と都市機能を享受できる住宅地として人気を呼び、今では約2,500戸の住宅が供給されています。多摩センターは生活感が漂う人々の暮らす街にもなりました。（横山陽）



多摩センター全景 2012（平成24）年7月

駅南からパルテノン多摩に向かってパルテノン大通りが伸び、その向こうには多摩中央公園が広がる。駅北の区画整理エリアにもマンション、複合ビルの建設が目立つ。

多摩ニュータウンと医療

1971（昭和46）年に多摩ニュータウンの入居が始まり、当時約4万人だった多摩市の人口も、現在は15万人弱の市民が暮らす緑豊かな街となりました。多摩ニュータウン内では、各居住エリアに科目ごとの診療所が集約され（通称「医者村」）、諏訪・永山地区を始めとした地域医療を、開業医が担ってきました。そして1977（昭和52）年に日本医科大学付属多摩永山病院、1993（平成5）年に多摩南部地域



多摩市医師会館 2019（令和元）年12月
2004（平成16）年に、多摩市永山5丁目に完成。



**建設中の日本医科大学付属
多摩永山病院B棟（写真右側）**
1982（昭和57）年頃



日本医科大学多摩永山病院
2019（令和元）年12月

病院が開設され、多摩ニュータウンの発展とともに、多摩市の医療体制も整備されてきました。

一方で、2020（令和2）年現在多摩市の高齢化率は28%を超え、今後急速に高齢化が進むことが予想されています。市民がこれまで以上に医療との関わりが深くなっていく中で、多摩市医師会と行政が連携しながら、さらなる医療、介護、福祉の充実を図り、多摩市が目指す、一人ひとりが安心して暮らせるまちづくり、健幸都市（スマートウェルネスシティ）を推進していく必要性が高まっています。

（田村豊）



建設中の多摩南部地域病院本館 1992（平成4）年10月



多摩南部地域病院本館 2019（令和元）年12月



初期入居間もない頃の多摩市諏訪のクリニック周辺
1971（昭和46）年6月



多摩市諏訪のクリニック周辺 2019（令和元）年12月

■ 相次ぐ街びらき

1976（昭和51）年1月10日早朝、妻が大声で何か叫んでいる。寝不足気味の頭にはすぐにその内容が入ってこない。やがて布団を引っぺがされてようやく目覚めた私に、妻は興奮気味に「当たったわよ!」と朝刊をかざす。以前から申し込んでいた公営住宅の当選発表であった。飛び上がって喜んだ。練馬区の狭いアパートに住んでいた我々は、年に何度かある住宅の公募に応募し落選ばかりを重ねていた。今回は多摩ニュータウンに建設された住宅で、その倍率は10倍であった。前年には子ども



多摩センター駅 1976（昭和51）年

も生まれ、広く子育てに適した地を求めていたのだ。3月28日に落合団地に入居した。ベランダから南を望むと広い中庭は芝張り作業の最中であり、歩道脇には植樹用に掘った穴が並んでいた。そして続々と入居する家族があり、ここでいよいよ新生活が始まるという活気があふれていた。通勤にはいささか時間がかかるようになったが、新しくて便利な生活が予感され広い大地と青空がまぶしかった。（岩本純一）

